

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今年度は国語科、算数科、理科で調査が行われました。全国平均値と比較して、国語科の「話すこと・聞くこと」で5.8ポイント、算数科の「図形」で5.2ポイント、理科の「地球」で3ポイント高い正答率となりました。一方、国語科の漢字、算数科の目的に応じた数の処理、理科の実験器具を問う問題では、平均を下回る正答率となりました。

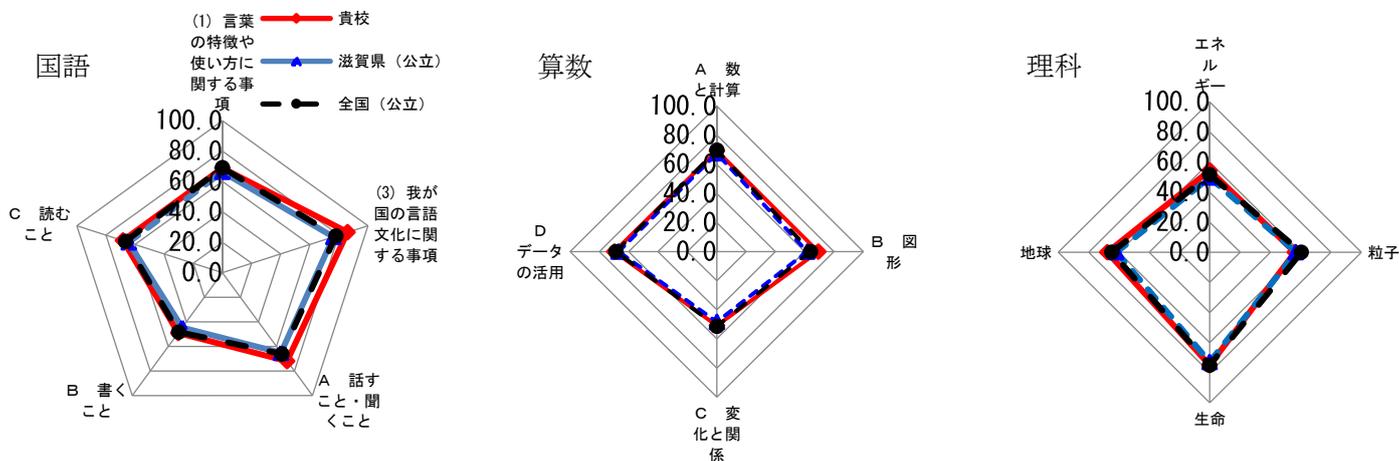
《強み・弱み》

日々の授業で、長等スタンダード学習を実践していることにより、問題に対する自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いて自分の考えを深めたりする力が定着してきていることが、国語「話すこと・聞くこと」の良好な結果につながったと考えます。一方、漢字や実験器具の名称などの知識の習得に課題が見られるので、今後、一人ひとりが目的意識を持って学習に取り組めるような授業改善を進めていく必要があると考えます。

◇学習指導要領の内容の平均正答率の状況◇

※本校の傾向を見るためのものであり、他校と比較できるものではありません。

(文部科学省からのデータをそのまま掲載しているため、長等小の部分は貴校と表示されています。)



【指導の充実に向けて】

授業では、子どもたちが、各教科の見方・考え方を働かせて問題に取り組む学習を行います。理科を例にすると、理科室でのモデル実験を日常の事物現象に当てはめて考察することで、応用力・活用力を持った知識の習得を目指します。

子どもの考えがつながる場面を「おたずね」として位置づけ、校内研究でその実態を明らかにしていきます。国語を例にすると、主人公の心情を友だちと出し合うことで、多面的な文章理解を目指します。また、「おたずね」の場面が充実することで深い学びへとつながるような、よりよい長等スタンダード学習の形態について研究していきます。